

■公益財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 平和祈念式典関連写真、長崎平和宣言
- アジア青年平和交流事業について
- 「市民のつどい」のお知らせ
- 図書販売コーナーの新刊紹介
- TOPICS (被爆者健康講話のお知らせ、市民対象碑めぐりのお知らせ、「平和の灯」実施報告)
- 臨界前核実験に対する抗議文
- 海外原爆展開会式の報告
- 「長崎国際平和映画フォーラム2011」のお知らせ



ロシアの若者に被爆体験を語る継承部会の深堀譲治さん

平成23年9月1日(木)ロシア連邦第83番学校にて(関連記事5ページ)



66年目の暑い夏…

～平和の祈り、長崎から世界へ～

66年目の夏、祈念式典会場とその周辺では、原爆犠牲者への追悼と、核兵器のない平和な世界を目指して、様々な行事が行われました。追悼平和祈念館でも、式典の模様を放映しました。



8月8日

平和の灯キャンドルライトアップコンサート

協会職員も実行委員として、キャンドル製作や当日の運営に参加しました。



8月1日～9日

長崎原爆写真展「IBUKI・息吹き」

写真資料調査部会による長崎原爆写真展が追悼平和祈念館地下2階で開催されました。



会場の様子

来場者に熱心に説明をする深堀写真資料調査部会長

一部の写真は長崎市広報広聴課提供

長崎平和宣言

今年3月、東日本大震災に続く東京電力福島第一原子力発電所の事故に、私たちは愕然としました。爆発によりむきだしになった原子炉。周辺の町に住民の姿はありません。放射線を逃れて避難した人々が、いつになったら帰ることができるのかもわかりません。

「ノーモア・ヒバクシャ」を訴えてきた被爆国の私たちが、どうして再び放射線の恐怖に脅えることになってしまったのでしょうか。

自然への畏れを忘れていなかったか、人間の制御力を過信していなかったか、未来への責任から目をそらしていなかったか……、私たちはこれからどんな社会をつくろうとしているのか、根底から議論をし、選択をする時がきています。

たとえ長期間を要するとしても、より安全なエネルギーを基盤にする社会への転換を図るために、原子力にかわる再生可能エネルギーの開発を進めることが必要です。

福島の原発事故が起きるまで、多くの人たちが原子力発電所の安全神話をいつのまにか信じていました。

世界に2万発以上ある核兵器はどうでしょうか。

核兵器の抑止力により世界は安全だと信じていないでしょうか。核兵器が使われることはないと思込んでいないでしょうか。1か所の原発の事故による放射線が社会にこれほど大きな混乱をひきおこしている今、核兵器で人びとを攻撃することが、いかに非人道的なことか、私たちははっきりと理解できるはず です。

世界の皆さん、考えてみてください。私たちが暮らす都市の上空でヒロシマ・ナガサキの数百倍も強大になった核兵器が炸裂する恐ろしさを。

人もモノも溶かしてしまうほどの強烈な熱線。建物をも吹き飛ばし押しつぶす凄まじい爆風。廃墟には数え切れないほどの黒焦げの死体が散乱するでしょう。生死のさかいでさまよう人々。傷を負った人々。生存者がいたとしても、強い放射能のために助けに行くこともできません。放射性物質は風に乗り、遠くへ運ばれ、地球は広く汚染されます。そして数十年にもわたり後障害に苦しむ人々を生むこととなります。

そんな苦しみを未来の人たちに経験させることは絶対にできません。核兵器はいらない。核兵器を人類が保有する理由はなにもありません。

一昨年4月、アメリカのオバマ大統領は、チェコのプラハにおいて「核兵器のない世界」を目指すという演説をおこない、最強の核保有国が示した明確な目標に世界の期待は高まりました。アメリカとロシアの核兵器削減の条約成立など一定の成果はありましたが、その後大きな進展は見られず、新たな模擬核実験を実施するなど逆行する動きさえ見られます。

オバマ大統領、被爆地を、そして世界の人々を失望させることなく、「核兵器のない世界」の実現に向けたリーダーシップを発揮してください。

アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国など核保有国をはじめとする国際社会は、今こそ核兵器の全廃を目指す「核兵器禁止条約（NWC）」の締結に向けた努力を始める時です。日本政府には被爆国の政府として、こうした動きを強く推進していくことを求めます。

日本政府に憲法の不戦と平和の理念に基づく行動をとるよう繰り返し訴えます。「非核三原則」の法制化と、日本と韓国、北朝鮮を非核化する「北東アジア非核兵器地帯」の創設に取り組んでください。また、高齢化する被爆者の実態に即した援護の充実をはかってください。

長崎市は今年、国連や日本政府、広島市と連携して、ジュネーブの国連欧州本部に被爆の惨状を伝える資料を展示します。私たちは原子爆弾の破壊の凄まじさ、むごさを世界のたくさんの人々に知ってほしいと願っています。

「核兵器のない世界」を求める皆さん、あなたの街でも長崎市と協力して小さな原爆展を開催してください。世界の街角で被爆の写真パネルを展示してください。被爆地とともに手を取り合い、人間が人間らしく生きるために平和の輪をつなげていきましょう。

1945年8月9日午前11時2分、原子爆弾により長崎の街は壊滅しました。その廃墟から、私たちは平和都市として復興を遂げました。福島の皆さん、希望を失わないでください。東日本の被災地の皆さん、世界が皆さんを応援しています。一日も早い被災地の復興と原発事故の収束を心から願っています。

原子爆弾により犠牲になられた方々と、東日本大震災により亡くなられた方々に哀悼の意を表し、今後とも広島市と協力し、世界に向けて核兵器廃絶を訴え続けていくことをここに宣言します。

2011年（平成23年）8月9日

長崎市長 田上 富久

臨界前核実験に対する抗議文を米国大統領へ

本年7月下旬、米国がネバダ核実験場で昨年12月と本年2月に臨界前核実験を実施していたことが明らかになりましたので、当協会は、抗議文を同国のオバマ大統領とルース駐日大使あてに送りました。

世界の核兵器廃絶と恒久平和の実現を目指す当協会としては、いかなる形であれ、核兵器の維持や開発につながる行為は容認できることでなく、抗議の意を示す必要があるとの運営会議や理事会の意見をふまえ、抗議文を送付したものです。抗議文は、日本語と英語を送りました。

抗議文

2011年7月22日

アメリカ合衆国大統領
バラク・H・オバマ 閣下

公益財団法人 長崎平和推進協会
理事長 横瀬 昭幸

貴国が、昨年12月と本年2月にネバダ核実験場で臨界前核実験を実施したことが明らかになりました。昨年9月の臨界前核実験や本年5月の新たなタイプの核兵器性能実験にくわえて貴国が臨界前核実験を行っていたことは、被爆地長崎で官民一体となり核兵器廃絶・世界恒久平和の実現を目指している私ども「公益財団法人長崎平和推進協会」にとって、到底受け入れることができない事態です。

2009年4月、貴殿が核兵器のない世界の実現に前向きな発言をされた「プラハ演説」をきっかけに核兵器廃絶の機運が高まりつつある国際社会において、核兵器の維持や開発につながる実験を立て続けに行ったことは、この流れに逆行する所業といえます。特に、プラハ演説を支持する声明を出した当協会としては、貴殿に対する期待を裏切られた思いがしております。

いかなる形であれ、核兵器の維持や開発につながる行為は容認できません。人類史上で唯一、広島とともに核兵器のもたらす惨劇を体験した長崎の被爆者や市民は大きな憤りと危機感を抱いております。

ここに、被爆地長崎の平和推進協会理事長として、今回明らかになった臨界前核実験に強く抗議すると同時に、全ての核兵器関連実験を放棄して、地球上から核兵器をなくすため共に歩んでいただくよう要請いたします。



活水高校の企画は、協会の企画は、協会の松添博さんの「ふりそでの少女」にまつわる物語の紙芝居を多言語化

「アジア青年平和交流事業」の企画1件の応募にとどまりましたが、去る7月24日(日)に土山秀夫さん(元長崎大学学長、長崎市名誉市民)を審査委員長とする「公開コンペティション」を開催して、「アジア青年平和交流事業」として活水高校の企画が認定可能かどうかの審査を行いました。

当協会の「アジア青年平和交流事業」につきましては、長崎の若者の自主的かつ継続的な活動の実現を目指していくという観点から、今年度より、大学生、高校生を対象として広く企画を募り、コンペティションを通じて優秀なものについて事業として認定していくことになりました。

「アジア青年平和交流事業」
活水高校の企画が認定されました



審査委員と活水高校のみなさん

今後、活水高校が認定された企画に基づき主体的に事業を実施していくこととなりますが、協会としてもその充実を図るため全面的な支援を行っていくことにしています。

してアジアからの留学生や同世代の県内の中高生にその悲劇を知ってもらいながら、みんなでディスカッションを行う場を作ることの基本にしたのですが、とてもすばらしい内容で審査員からも高い評価を得て、満場一致でアジア青年平和交流事業として認定されました。

ロシア原爆展開会

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館（祈念館）が主催する海外原爆展「ヒロシマ・ナガサキ原爆展（副題「脆弱な平和）」が8月29日、ロシア連邦サンクトペテルブルク市で始まりました。現地受入先である卒業教育医学アカデミーの講堂で、日本総領事、露日友好協会副会長ほか多数の来賓を迎えて開会式が盛大に執り行われるとともに、「非核特使」として委嘱された継承部会会員である被爆者・深堀讓治さん（80才）の被爆証言（体験講話）が行われました。



開会式で講話を行う深堀さん（後ろは通訳の高橋さん）

ロシア語通訳により行われた講話でしたが、会場の100名を超える出席者は証言を真剣な表情で聴き入り、涙を拭う姿が見られました。祈念館では式に先立ち、レニングラード包囲戦の犠牲者を埋葬するピスカリョフ記念墓地を訪れ多数の市民の犠牲に対し献花を行ないましたが、今なお絶えない市民の祈りの姿に証言を聴き入る出席者の姿が重なり、戦争の悲惨な記憶についての私たちの想いと通じるものが強く感じられました。式典終了後は展示会場に移り、写真パネルや被災資料など展示資料の説明が行われました。「平和へのメッセージ」や「折鶴」といった参加型の各コーナーも設けられていて、会場は大勢の見学者であふれました。展示を熱心に見入る姿が各所に見られ、平和へのメッセージや折り鶴も多数いただいています。なかでも、懸命に鶴を折る若者や子供の姿がとても印象的でした。その後、会場を移し、軽食をともしながらの歓談の場が設けられ、来賓との交流が深められました。

翌30日と9月1日にはそれぞれ二回と一回の講話が実施されましたが、最終となる1日の講話は「第83番学校」という日本語を学ぶ学校で多数の生徒を集めて行われ、

ロシアの若い世代に深堀さん、ひいては私たちの核兵器廃絶・平和への想いが伝えられました。また、30日の講話には、ニュースで知ったという近隣の高校生が聴講のため来場するといううれしい出来事もありました。



第83番学校の生徒・先生の皆さんと

開会に伴う一連の行事は以上で無事、盛会のうちに終了しましたが、開催にあたってのロシア側の多大な協力と、私たち一行をこころよく送りだしていただきました協会、そして会員の皆様に、心から感謝を申し上げます。

期間 平成23年10月28日まで

（文責・事業課長 坂口）

国連軍縮週間

「市民のつどい」

協会では、国連軍縮週間に合わせて「市民のつどい」を開催します。どなたでも気軽に参加できて楽しめるイベントですので、みなさんぜひご来場ください。

日時：10月29日（土）

10時～13時ごろ

場所：原爆資料館前階段下広場

《戦時食コーナー》

戦時中の戦時食を試食しながら食糧事情を学ぶコーナー。

《原爆被爆写真展》

被爆写真を長きにわたって研究している写真資料調査部会員から説明を聞くことができます。

ほかにも、

《環境にやさしい紙風船》、《折り鶴》、《ミニコンサート》、《わたがし、ポップコーン》などのコーナーもあります。



紙風船コーナーの様子

長崎国際平和映画フォーラム2011を開催します

今年も昨年に引き続き、追悼平和祈念館主催の「長崎国際平和映画フォーラム2011」が10月29日(土)、30日(日)に開催されます。前回以上に充実した上映作品と様々なプログラムが予定されていますので、ぜひご来場ください(29日は当協会主催の「市民のつどい」も行われます)。

☆ 10月29日(土) のプログラム

会場：長崎原爆資料館ホール(長崎市平野町7-8 Tel (095)844-1231)

10:30～『原爆の子』監督:新藤兼人/出演:乙羽信子、滝沢修/1952年製作(105分)

12:30～『つるにのって』(アニメ)監督:有原誠治/1993年製作(27分)

! 13:00～ おやかで観る紙芝居会

13:30～『長崎の子』監督:樋口源一郎/1950年製作(20分)

14:00～『この子を残して』監督:木下恵介/出演:加藤剛、十朱幸代/1983年製作(128分)

16:45～『アトミック・カフェ』監督:ケヴィン・ラファティ/1982年製作(87分)

会場：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ(長崎市平野町7-8 Tel (095)814-0055)

11:00～『私は原爆を伝えなかった』NCC長崎文化放送/2003年放送(46分)

12:15～『もう碑は建たない』NBC長崎放送/1975年放送(50分)

13:30～『ハン・命を刻んで～金順吉(キム・スンギル)氏の足跡』KTNテレビ長崎/1998年放送(51分)

14:45～『17歳のメッセージ～高校生1万人の署名～』NIB長崎国際テレビ/2001年放送(30分)

! 15:30～17:30 テレビ局関係者によるトークイベント『これから被爆地長崎をどう伝えていくのか?』

☆ 10月30日(日) のプログラム

会場：長崎原爆資料館ホール(長崎市平野町7-8 Tel (095)844-1231)

10:30～『運命の背中』監督:出山知樹/出演:出先拓也、大林舞/2009年製作(40分)

*出山監督舞台挨拶(予定)

11:15～『カティンの森』監督:アンジェイ・ワイダ/出演:マヤ・オスタシェフスカ/2007年製作(87分)

12:45～『チェルノブイリ・ハート』監督:マリアン・デレオ/2003年製作(60分)

*アカデミー賞監督マリアン・デレオ氏舞台挨拶、Q&A

14:15～『世界は恐怖する』監督:亀井文夫/1957年製作(80分)

! 15:45～ Yaetーク&ミニコンサート

16:40～『黒い雨』監督:今村昌平/出演:田中好子、北村和夫/1989年製作(123分)

会場：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ(長崎市平野町7-8 Tel (095)814-0055)

! 11:00～12:00 長崎平和特派員・タナカ有美氏報告会

! 13:00～15:00 被爆体験記朗読・紙芝居会in NIPFF

! 15:30～17:00 意見交換会『マリアン・デレオ監督を迎えて～人間の世界に核はいらない』

* ! は、映画上映・番組放映以外のプログラムです。

☆すべてのプログラムが入場無料です。

☆映画フォーラムに来場された方は、原爆資料館の入館料(観覧料)が10月29日、30日は無料になります。また、同じく、資料館内の喫茶「セントポール」での飲食代が両日とも5%割引となります。

☆お越しの際は、公共交通機関をご利用ください(最寄りのバス停・電停「浜口町」)。

< お問い合わせ >

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 長崎国際平和映画フォーラム係 Tel (095)814-0055

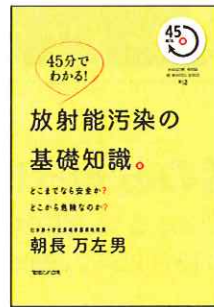
長崎市平野町7-8 MAIL: info@peace-nagasaki.go.jp HP: http://www.peace-nagasaki.go.jp/

新刊紹介

原爆資料館図書販売コーナーで、新たに取り扱い始めた本・DVDを紹介いたします。是非お買い求めください（価格は全て税込価格です）。

●45分でわかる！放射能汚染の基礎知識。

朝長万左男著 マガジンハウス 840円



「放射能」のQ&Aから人体や食品への影響まで、基本的な知識を教えます。

●正しく怖がる放射能の話

山下俊一監修 長崎文献社 1,050円



放射線はどこまで安全で、どこから怖いのか?などの問題をやさしく解説します。

●論文集 核廃絶への道

土山秀夫著 長崎文献社 1,890円



長崎市名誉市民・土山秀夫氏のこれまでの論文をまとめた論文集です。

●ヒロシマ・ナガサキ二重被爆

山口彊著 朝日新聞出版 651円



広島と長崎で二度被爆した著者が重い口を開き自らの半生を語ります。

●原爆・五〇〇人の証言

朝日新聞社編 朝日新聞出版 735円

●命つないで 韓国語版

茅野丈二・平野伸人共著 長崎新聞社 1,260円



韓国人被爆者を救おうと立ち上がった長崎友愛病院と県被爆二世教職員の会の約20年に及ぶ活動の記録。日本語版も販売しています。

●マリアの川

虫乃沐著 グランブルー出版 1,300円

●傷壁 失われた原爆遺構 旧浦上天堂

一瀬比郎著 長崎文献社 2,100円

●高校生二万人署名活動2

高校生二万人署名活動実行委員会 監修 長崎新聞社 1,000円



今年で11年目を迎えた高校生二万人署名活動のこれまでの歩みをまとめた一冊です。

DVD

●長崎の記憶

幻の原爆フィルムで歩く長崎

●ヒロシマの記憶

幻の原爆フィルムで歩く広島

日映映像 各3,990円



原爆投下2か月後の焦土と化した長崎・広島風景をとらえた幻のフィルムをDVD化。被爆者の証言を交えながら、当時の惨状を振り返ります。

このほか、多くの書籍を販売しております。詳しくは協会ホームページをごらんください。

被爆者健康講話のお知らせ

今年6月に開講し、来年3月まで全10回に渡る「被爆者健康講話」の10月以降の講師とテーマが決まりましたので、お知らせいたします。

場 所：祈念館地下1階研究室
 時 間：15：00～16：00
 お問い合わせ：(095)814-0055

第5回 10月13日(木)

「知っておこう脂肪肝
 —早めの予防と対策—」

第6回 11月10日(木)

「伸ばそう、健康寿命
 ～脱メタボのためのちょっとイイ話～」

第7回 12月15日(木)

「糖尿病ってどんな病気？」

「平和の灯」が実施されました

本年も原爆犠牲者の方を追悼し、またこの惨禍を語り伝えていくためにキャンドルに火を灯す「平和の灯」が実施されました。

8月8日午後3時、降りしきる雨の中、平和の灯実行委員会をはじめボランティア300人が平和公園泉の広場に集まり、市内小中学校の皆さんが心をこめて作ったキャンドルを並べました。

日が暮れてくると鬼永実行委員長と共に特別参加した福島県いわき市の生徒会長代表らによる点灯式が行われ、キャンドル5,000本に火が灯されました。



平和の泉では有志によるコンサートが始まり、山里小学校、城山小学校をはじめ、昨年から参加している江平中学校やオペラユニットレジェンドなどの美しい歌声が平和公園に響きわたり、最後は会場の皆さんとボランティア全員が十八銀行混声合唱団に合わせ、長崎の鐘を熱唱しました。

暗闇に灯る灯りを見、合唱の調べを聞いた6,000人の来場者の心にはきっと新たな平和の火が灯ったことでしょう。

碑めぐりに参加しませんか？

10月16日(日)午前10時より、継承部会慰霊碑巡り班が主催する「市民対象碑めぐり」を開催します。参加費無料、事前のお申し込みも不要です。ぜひ、ご参加ください。

日 時：平成23年10月16日(日)
 10：00～12：00

※10分前までにご集合ください

集合場所：天主公園(浦上天主堂の正面にある公園です)

コ ー ス：原爆記念碑(坂本町)・穴弘法寺・穴弘法奥之院霊泉寺ほか

参 加 費：無料



田中大村市競艇企業局長(右)と横瀬理事長

平成21年度から毎年「長崎原爆の日」のボートレース収益の一部をご寄付いただいている大村市競艇企業局様から、今年も50万円の寄付をいただきました。当協会が行っているさまざまに平和推進事業に有効に活用させていただきます。ありがとうございます。ありがとうございました。

- ◎大串 三恵子 五千元
 - ◎木下 伊勢康 一万元
 - ◎片岡 徹 九千元
 - ◎松下 三榮子 五千元
 - ◎大村市競艇企業局 五十万円
 - ◎匿名 二千元
- (敬称略)

寄付者紹介

ありがとうございます

会員数報告

- ◎維持会員 1,167名
- ◎賛助会員 162名
- ◎学生会員 14名

平成23年9月14日現在